

総務文教委員会

課長代理以上の
能力発揮に人事評価制度

Ⅱ大阪・寝屋川市Ⅱ

去る7月14日から3日間、岐阜県高山市、富山市、大阪府寝屋川市を視察しました。

初日に訪れた高山市は、平成17年に10市町村が合併し、日本一面積の広い市となり、歴史、伝統、文化を生かしたまちづくりで有名。思いきった人件費削減による行財政改革を断行し、それによって生まれた財源をそのまちづくりに投入していました。観光客獲得にも力を入れ、作られた街並みというより、街角や軒先に何気なく置かれた朝顔やユリ等の花々に、この街を愛する市民力、文化と生活の密着度の深さ、思いがあふれていました。そこに引き込まれていくように街は観光客で賑わっていました。

委員会の活動報告

障がいのある軽減を図ることを目的とした強度行動障がいに対する支援も行っています。

次に、帯広市では、平成13年度に「地域新エネルギー



障害者福祉施設 星が丘寮 (北斗市)

太陽光発電を1万戸に普及することに、2000年より、2000年に年間138万トンだったCO₂排出量を、2020(30)年までに94万7400トンまで削減することを目標としています。今回の視察を参考に、本市の市政に生かしていきたいと思

います。(村木 理英)

次に、高山本線を北上し、富山市へ。体育施設の指定管理者制度の導入を視察。富山市では、委託管理からの移行であり、総社市のようには官から民への導入とは少し様相が違っていました。しかし、導入の際、公募という事で、これまでの委託団体に危機感が生まれ、サービソ向上とコストダウンにつながったようです。総社市においても十分な検討が必要だと思いました。さらに全国でも注目のLR T(次世代型路面電車)の説明を受け、実際に乗車。車内は美化の観点から広告



軒先にユリの花が置かれ市民力を感じさせる街並み (高山市)

はあえてしないということ、整然としていました。停車場には、市民や企業からの寄附の椅子や広告もおしゃれでした。しかし、沿線の活性化にはまだ問題が残されており、沿線下への転居や建築に助成はあるものの利用者は少ないということ。総事業費58億円のうち市単独事業費は10億円で、毎年7千万円の補助に加えて、今後は高齢化に向けて、市民の足の確保のために、市内環状線構想も検討されているようです。

最後は人事評価制度。寝屋川市では、平成11年に「自治体はサービス産業である」との考えから「自治経営推進室」を設置。全国からリーダーを公募しました。さらに課長、係長の候補者試験を導入し、部長以上に対し複数人の評価者が評価する360度(多面)評価を実施。評価項目も、能力を評価するとい

産業建設消防委員会

有機農業物の認定

Ⅱ山形・鶴岡市Ⅱ

5月12日から3日間、山形県鶴岡市と青森県青森市を視察しました。

鶴岡市は、最上川の流域に広がる庄内平野の肥沃な地を利用した米作りが盛んなところ。視察に訪れたときはちょうど田植えの真っ最中でした。米の産地として不動の庄内平野ですが、米の消費が減少する中、産地間の競争に打ち勝つことが至上課題となっ

ています。そんな中、農作物の安全・安心で差別化を図ることを目的に、有機農産物の認定登録機関へ名乗りを上げたのが旧藤島町です。合併後も引き継がれています。その他にも鶴岡市独自のガイドラインを定めた特別栽培農産物の認定事業も行われています。これらは「地域の独自ブランド」として消費者へアピールを行い、農産物の安心と安全を保証するシステムでもあります。

ただ、JAS有機の認定

厚生委員会

障害者福祉施設群

おしまこーりー

Ⅱ北海道・北斗市Ⅱ

7月23日に北斗市で障害者福祉施設(おしまこーりー)について、24日に帯広市で自然エネルギーの導入について視察を行いました。

おしまこーりーは、乳幼児から高齢の方々まで各ライフステージに応じて整備された「施設群」の総称です。開設以来、地域生活を指す実践を進め、暮らしの場・働く場があり、これらの施設が連携し、「機能共同体」として障がい者のニーズに応えながら、日々の暮らしを支えています。

星が丘寮は、成人期に達した自閉症の人たちを中心に受け入れている施設です。個々の利用者の特性・機能

れまで特に問題もなく、生き生きとしている職員の姿が効果を物語っていました。総社市での効果を期待し、視察を終え寝屋川を後にしました。(頓宮美津子)

レベルやコミュニケーションレベル等を把握した上で、個人個人に応じたスケジュールの提示等、個別化を重視した支援を行っています。平日の日中活動は働くことを中心に、3種類の作業と一般企業等での実習を行っており、余暇活動としては運動を中心に、本人が楽しめる内容で行っています。

また、強度行動障がいを持った自閉症の方々を対象に、TEACCH(自閉症及び関連領域のコミュニケーションに障がいを持つ子どもの治療と教育)プログラムによる療育を行っています。

第二おしま学園は、全国初の第二種自閉症児施設として開設されました。将来にわたって安定した暮らしを営めるように、TEACCHプログラム アイデア



庄内平野の田園風景(鶴岡市)

はおもりに食育・地産地消推進運動の説明を受けました。「うちでは食育推進運動を進めるプロジェクトを組んだ際に、食育基本計画の策定は農林水産部が中心となっており、職員の方が自信たっぷりに言われたのが印象に残っています。なるほどその通り！的を得た言葉です。食育は農林課が行うべきだということのようです。地元で採れた畑のもの、海のものを毎日食卓へ。当たり前のことかなかなか現実のものにならないですが、この実現の先に農業の光明が見えるような気がしました。(大熊公平)